

個人投資家の相場環境等に対する意見や投資判断等を調査するため、2025 年 6 月 5 日から 6 月 9 日までインターネットを通じて、マネックス証券に口座をお持ちのお客様にアンケート（回答数 1,007 件）を実施しました。ご回答いただいた皆様のご協力に感謝いたします。誠にありがとうございました。

今回、定例調査である個人投資家の相場観や NISA の利用状況に加え、特集として「2025 年 4 月のマーケット変動や直近の物価上昇を受けた投資状況」等について調査しました（当社ウェブサイトへの掲載日は、2025 年 6 月 20 日です）。

「MONEX 個人投資家サーベイ」は、個人投資家の相場環境に対する意識調査としてアンケートを行い、その調査結果をまとめたものです。2009 年 10 月に第 1 回サーベイを行い、2009 年 11 月から 2016 年 3 月までは月次で、2016 年 4 月から 2016 年 12 月までは隔月、2017 年 3 月以降は四半期毎に調査結果を公表しています。

また、グループ会社であるトレードステーション証券（米国）、マネックスBOOM証券（現・BOOM証券香港）の個人投資家の皆様にも調査を行い、調査結果を「MONEX グローバル個人投資家サーベイ」として公表しております。2011年6月から2016年3月までは四半期毎、2016年6月以降は半年毎、2018年12月以降は、1年毎に調査結果を公表しています（マネックスBOOM証券の個人投資家を対象とした調査は2023 年 12 月をもって終了しました）。

■調査結果

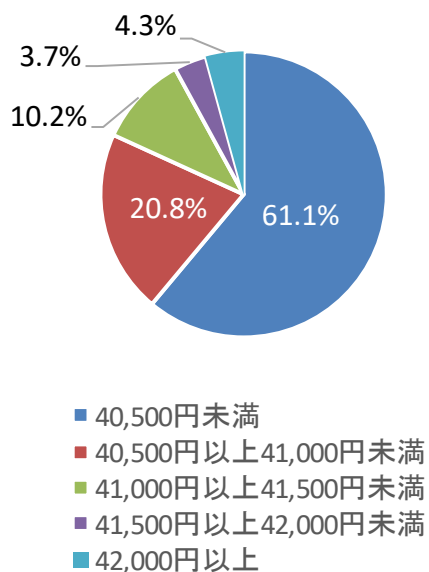
1. 2025 年の日経平均株価およびダウ平均株価の高値・安値予想

個人投資家の相場観の調査として、2025 年の日経平均株価およびダウ平均株価の高値・安値予想を調査しました。

(1-1) 2025 年の日経平均株価の高値予想は「40,500 円未満」が最多、安値予想は「30,500 円以上」が最多

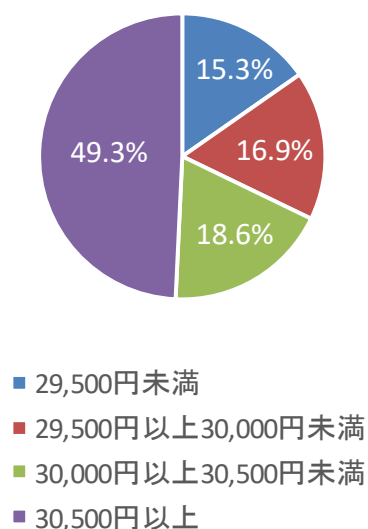
【参考 年初来高値：40,288.80 円 年初来安値：30,792.74 円】

グラフ1-1: 2025年日経平均株価高値予想



(出所) マネックス証券作成

グラフ1-2: 2025年日経平均株価安値予想

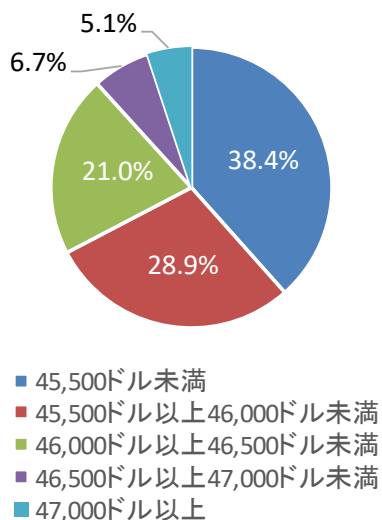


(出所) マネックス証券作成

(1-2) 2025 年のダウ平均株価の高値予想は「45,500 ドル未満」が最多、安値予想は「36,000 ドル以上」が最多

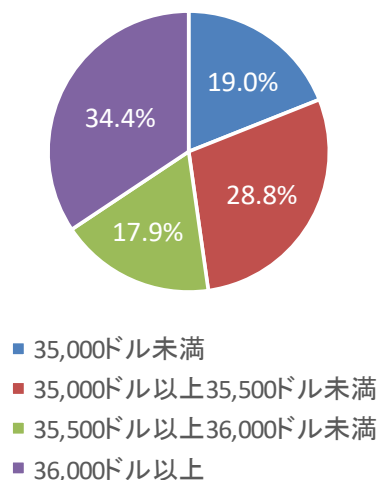
【参考 年初来高値：45,054.36 ドル 年初来安値：36,611.78 ドル】

グラフ1-3: 2025年ダウ平均株価高値予想



(出所) マネックス証券作成

グラフ1-4: 2025年ダウ平均株価安値予想



(出所) マネックス証券作成

2025年の日経平均株価の高値予想は「40,500円未満」と回答した方の割合が61.1%と最も多く、続いて「40,500円以上41,000円未満」が20.8%となっています。安値予想は「30,500円以上」と回答した方の割合が49.3%で最多となりました。調査時点での年初来安値は30,792.74円であり、それを超える下落はないとの見方が多いようです。

ダウ平均株価の高値予想は「45,500ドル未満」と回答した方の割合が38.4%と最も多く、続いて「45,500ドル以上46,000ドル未満」が28.9%となっています。安値予想は「36,000ドル以上」と回答した方の割合が34.4%で最多、続いて「35,000ドル以上35,500ドル未満」が28.8%となりました。調査時点での年初来安値は36,611.78ドルであり、それを超える下落はないとの見方が多いようです。

米トランプ大統領の発言や政策にマーケットが左右される状況が続いており、前回調査(2025年3月)と比較すると特に高値予想が弱気となっています。

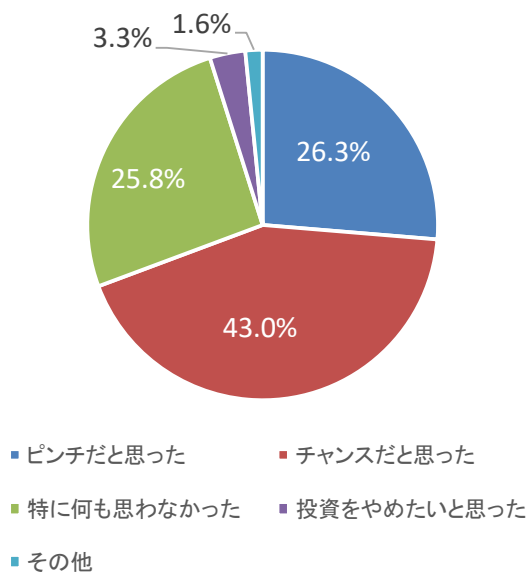
2. 2025年4月のマーケット急落を受けた投資状況について

直近のマーケットは米トランプ大統領の発言や政策に左右される状況が続いており、特に今年4月の「トランプ関税」の発動は2024年8月以来の世界同時株安をもたらしました。前回の急落から1年も経たずに再び急落したマーケットに対し、個人投資家がどのように感じ、どのような投資行動を起こしたかを調査しました。

なお、2024年9月の個人投資家サーベイで同年8月のマーケット急落を受けた投資状況の調査を行っており、その結果との比較も行いました。

(2-1) 2025 年 4 月のマーケット急落を受けた率直な心情について

グラフ2-1：2025年4月のマーケット急落を受けた率直な心情

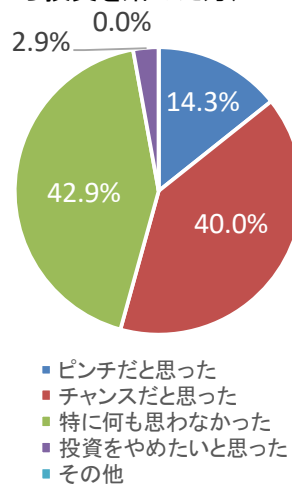
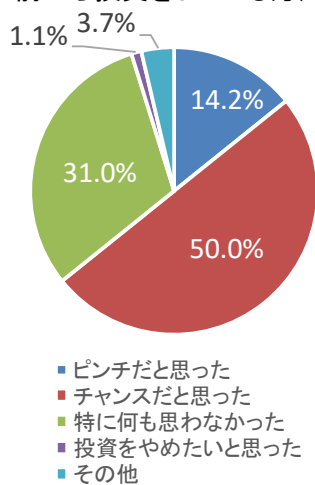


(出所) マネックス証券作成

(参考：2024年9月調査) 2024年8月のマーケット急落を受けた率直な心情

(2023年以前から投資をしている方)

(2024年から投資を始めた方)



(出所) マネックス証券作成

マーケットの急落を受けた率直な心情としては「チャンスだと思った」という回答が最多で 4 割以上を占める結果となりました。

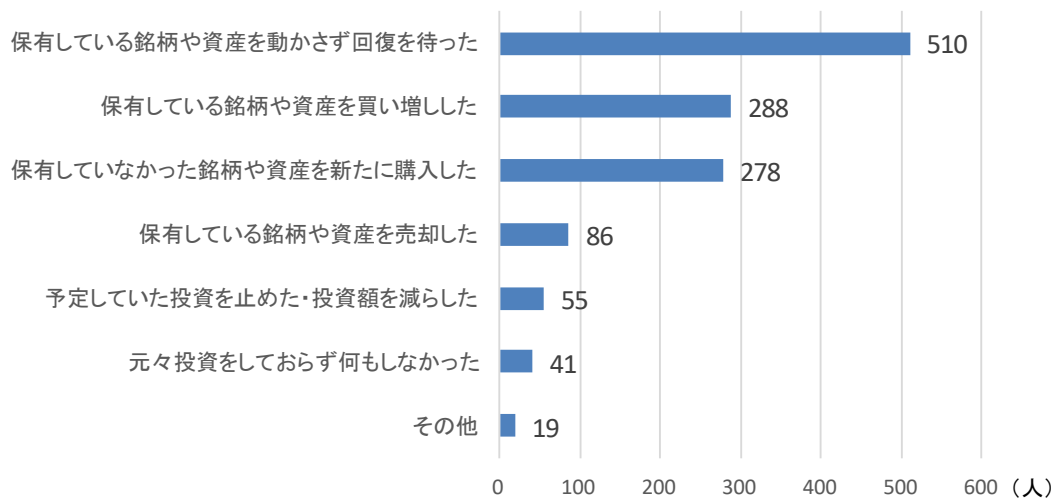
2024 年 9 月の調査でも 2023 年以前から投資をしている方の 50%、2024 年から投資を始めた方の 40%が「チャンスだと思った」と回答しています。

一方で「投資をやめたいと思った」という回答は今回調査でも 2024 年 9 月の調査でもわずか数%にとどまりました。

(2-2)2025年4月のマーケット急落を受けた投資行動について

グラフ2-2：2025年4月のマーケット急落を受けた投資行動

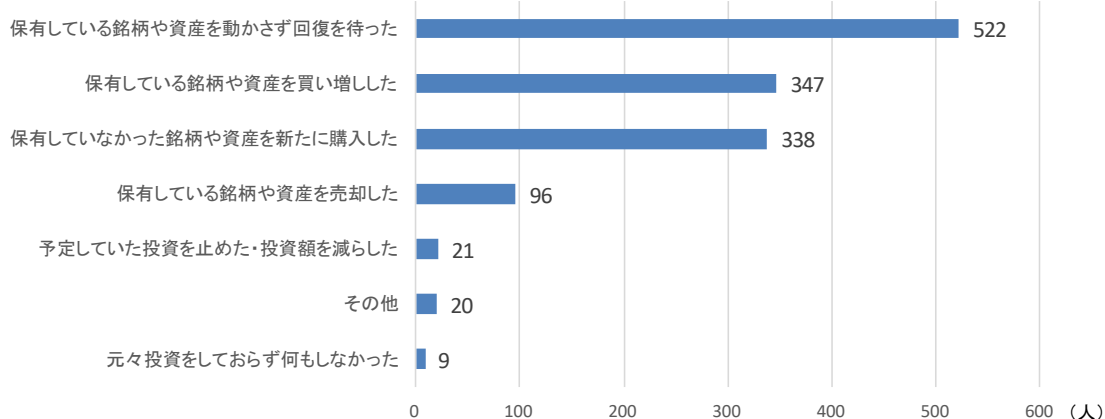
(複数回答)



(出所) マネックス証券作成

(参考：2024年9月調査)2024年8月のマーケット急落を受けた投資行動(2023年以前から投資をしている方)

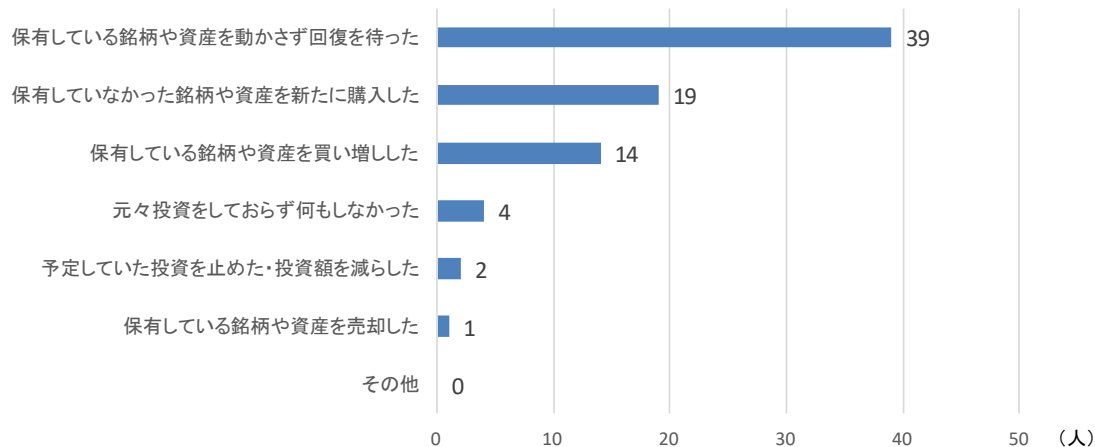
(複数回答)



(出所) マネックス証券作成

(参考：2024年9月調査)2024年8月のマーケット急落を受けた投資行動(2024年から投資を始めた方)

(複数回答)



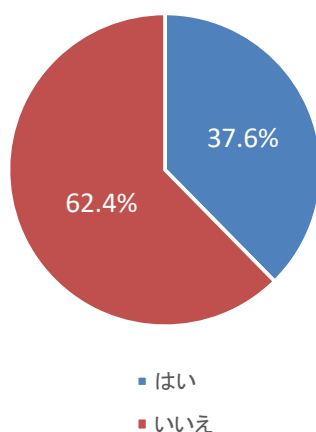
(出所) マネックス証券作成

マーケットの急落を受けてどのような投資行動を起こしたかをたずねたところ、「保有している銘柄や資産を動かさず回復を待った」という回答が最多となりました。

2024 年 9 月の調査でも同じ回答が最多となっており、マーケットが急落しても狼狽せずに回復を待とうとする冷静な姿勢がうかがえます。

(2-3) 2025 年 4 月のマーケット急落を受けた投資方針の見直しについて

グラフ2-3：2025年4月のマーケット急落を受けて投資方針を見直したか

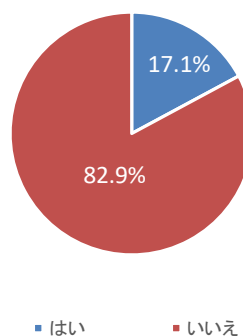
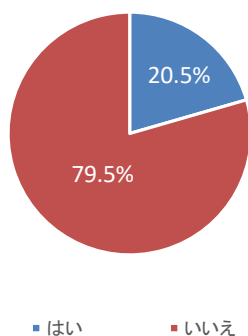


(出所) マネックス証券作成

(参考：2024年9月調査) 2024年8月のマーケット急落と急回復を受けて投資方針を見直したか

(2023年以前から投資をしている方)

(2024年から投資を始めた方)



(出所) マネックス証券作成

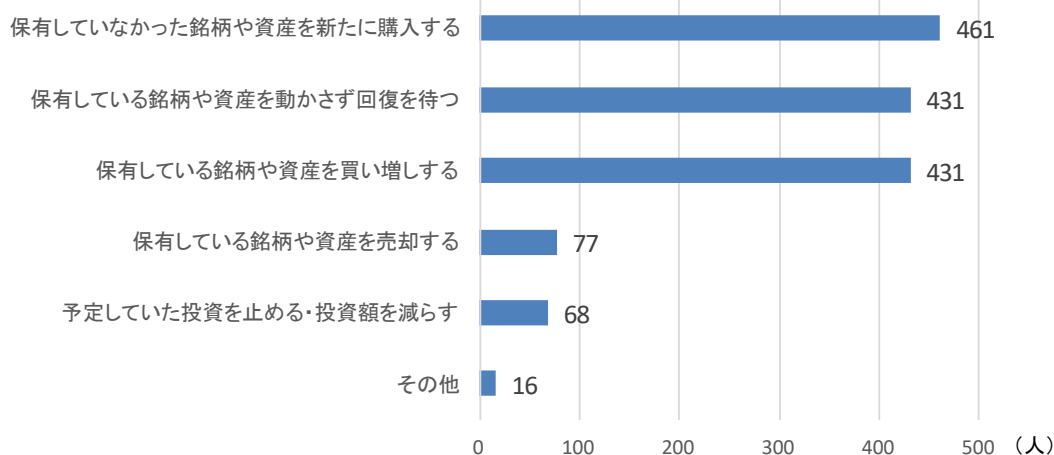
マーケットの急落を受けて投資方針を見直したかをたずねたところ「いいえ」という回答が 62.4%で優勢でした。

2024 年 9 月の調査でも「いいえ」が優勢でしたが、その割合は 2023 年以前から投資をしている方の 79.5%、2024 年から投資を始めた方の 82.9%となっており、今回の調査では割合がやや縮小しています。

(2-4)今後マーケットが急落した場合の投資行動について

グラフ2-4: 今後マーケットが急落したらどのような投資行動を起こすか

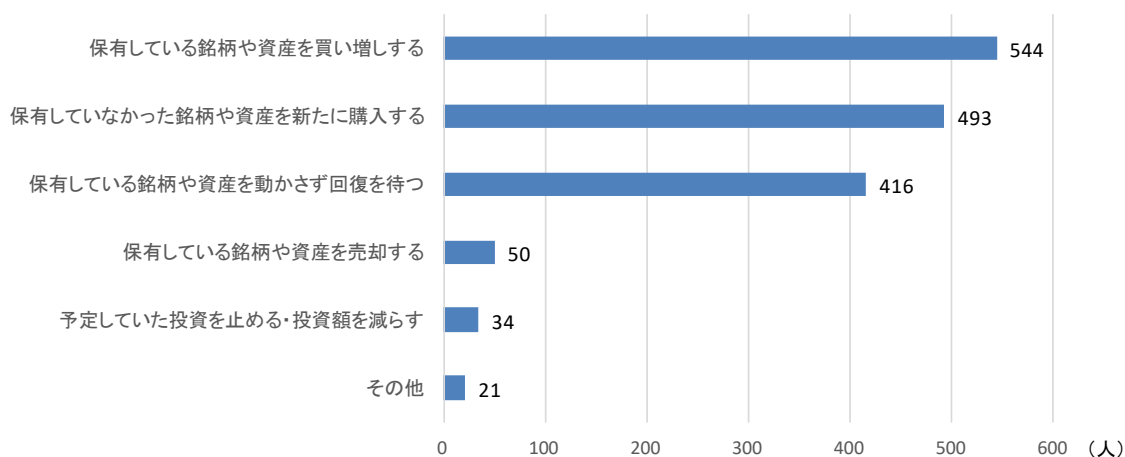
(複数回答)



(出所) マネックス証券作成

(参考: 2024年9月調査) 今後マーケットが急落した場合の投資行動 (2023年以前から投資をしている方)

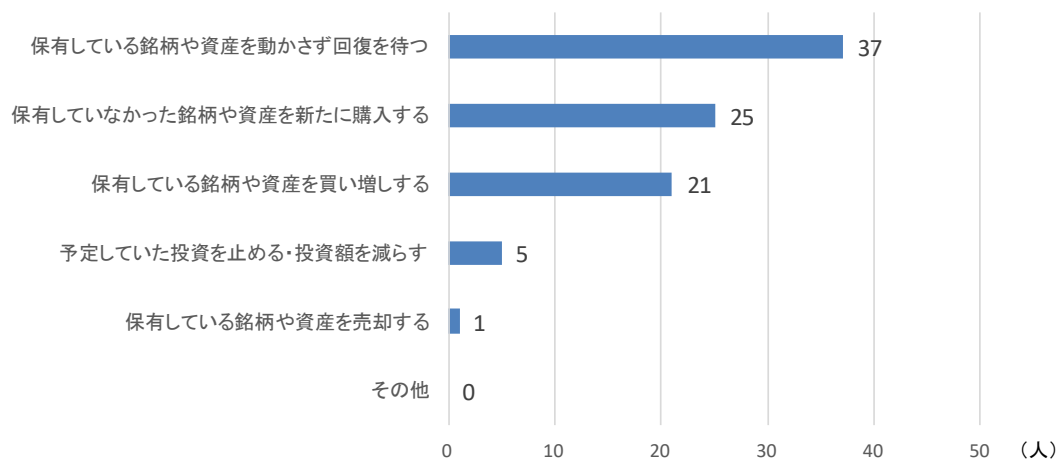
(複数回答)



(出所) マネックス証券作成

(参考: 2024年9月調査) 今後マーケットが急落した場合の投資行動 (2024年から投資を始めた方)

(複数回答)



(出所) マネックス証券作成

今後マーケットが急落した場合の投資行動については「保有していなかった銘柄や資産を新たに購入する」が最多となりました。

2024年9月の調査で最も多かった回答は2023年以前から投資をしている方では「保有している銘柄や資産を買い増しする」、2024年から投資を始めた方では「保有している銘柄や資産を動かさず回復を待つ」でした。

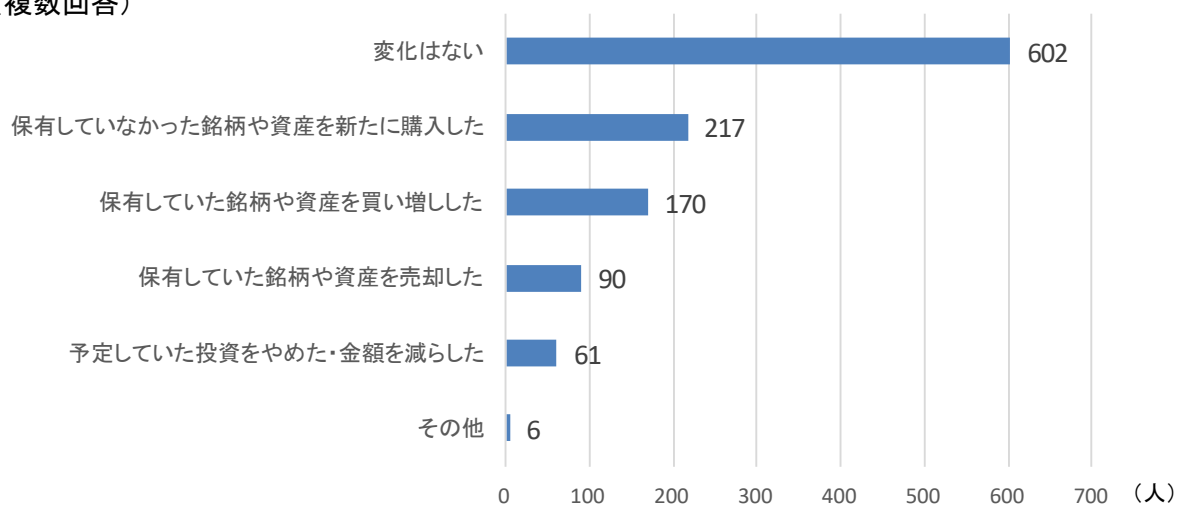
3. 日本国内の物価上昇と投資への影響について

物価上昇が話題となっている中、投資金額や家計にどのような変化があったかをたずねました。

(3-1) 物価上昇を受けた投資金額や保有資産の変化について

グラフ3-1: 物価上昇を受けて投資金額や保有資産はどう変化したか

(複数回答)



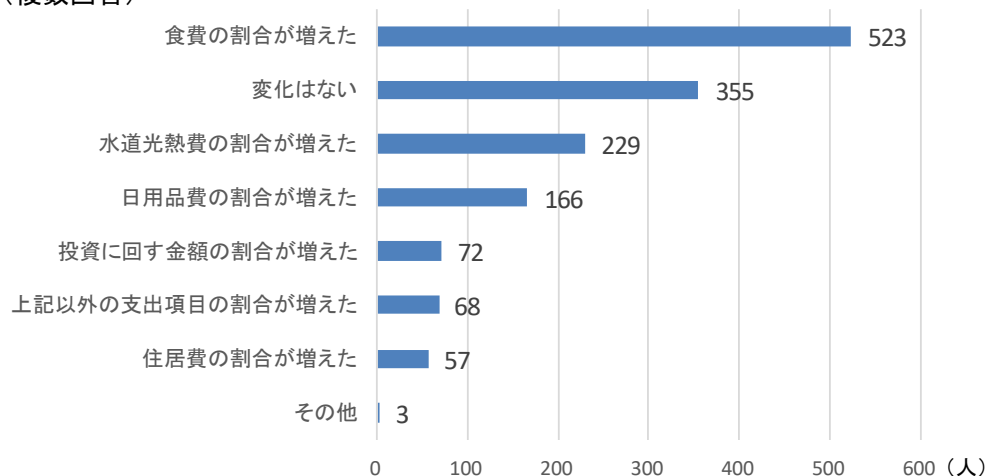
(出所) マネックス証券作成

物価上昇を受けた投資金額や保有資産の変化については「変化はない」という回答が圧倒的に多数となりました。「保有していなかった銘柄や資産を新たに購入した」や「保有していた銘柄や資産を買い増した」という回答も一定数あり、インフレ対策の一環として投資を行っている様子がうかがえます。

(3-2)家計の支出割合の変化について

グラフ3-2: 直近3ヶ月程度で家計の支出割合はどう変化したか

(複数回答)

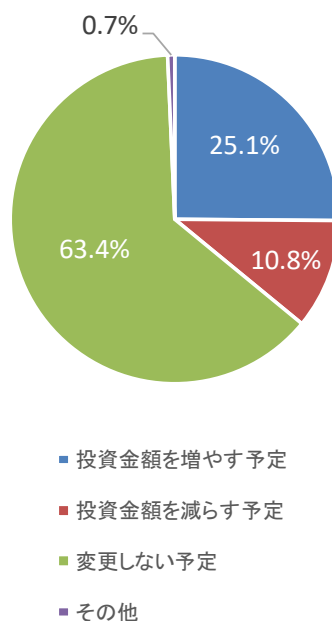


(出所) マネックス証券作成

直近 3 ヶ月程度で家計の支出割合にどのような変化があったかをたずねたところ「食費の割合が増えた」が最多となりました。コメ価格上昇を始めとしてニュース等で物価上昇が報じられていますが、「変化はない」という回答が 2 番目に多い結果となりました。

(3-3)今後物価がさらに上昇した場合の投資金額について

グラフ3-3: 今後物価がさらに上昇したら投資金額をどう変更するか



(出所) マネックス証券作成

今後物価がさらに上昇した場合の投資金額については「変更しない予定」という回答が最多で 63.4%となりました。「投資金額を減らす予定」という回答は 1 割程度にとどまりました。

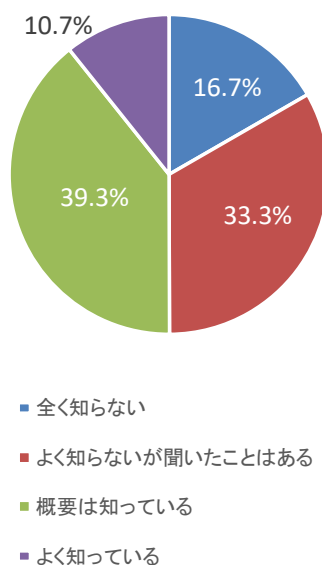
4. アクティビストの認知度やイメージについて

マネックス証券の創業者 松本大が運用に関わる投資信託「マネックス・アクティビスト・ファンド」が設定来高値圏で推移しているなか、アクティビストの認知度やアクティビストの提言に対するイメージを調査しました。

(マネックス・アクティビスト・ファンドについて、詳細は特設サイトをご確認ください
<https://info.monex.co.jp/feature/activistfund/index.html>)

(4-1) アクティビストの認知度について

グラフ4-1:「アクティビスト」という言葉を知っているか



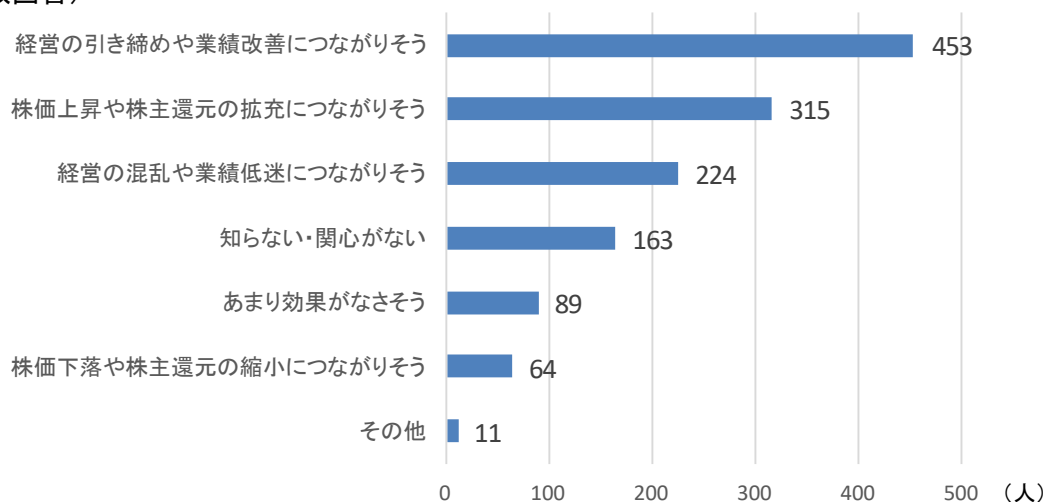
(出所) マネックス証券作成

「アクティビスト」という言葉を知っているかをたずねたところ「概要は知っている」が最多で 39.3%、次いで「よく知らないが聞いたことはある」が 33.3%となりました。一方で「全く知らない」という方も 16.7%と一定数いることが分かりました。

(4-2)アクティビストの提言や提案に対するイメージについて

グラフ4-2:アクティビストの提言や提案に対してどんなイメージを持っているか

(複数回答)



(出所) マネックス証券作成

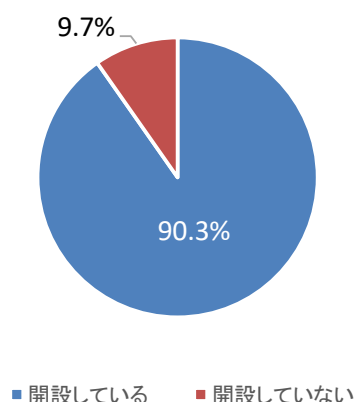
アクティビストの提言や提案に対するイメージについては「経営の引き締めや業績改善につながりそう」が最多で「株価上昇や株主還元の拡充につながりそう」が続く結果となりました。昔は「ハゲタカ」と呼ばれるなどネガティブなイメージもありましたが、最近は好意的なイメージを持つ方が増えてきているようです。

5. NISA 口座の利用状況

2024 年からスタートした新しい NISA 制度（以降「NISA」といいます）について、NISA 口座の利用状況や投資金額を調査しました。

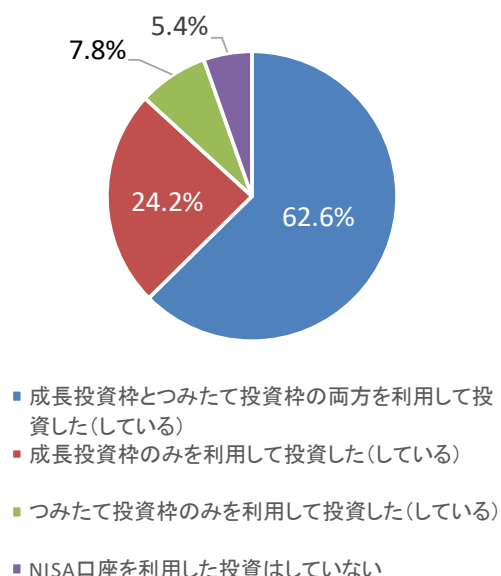
(5-1) NISA 口座の開設状況と利用状況について

グラフ5-1: NISA口座開設状況



(出所) マネックス証券作成

グラフ5-2: NISA口座利用状況

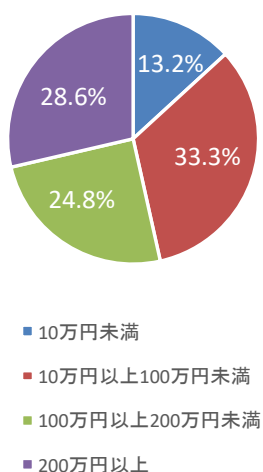


(出所) マネックス証券作成

NISA 口座の開設状況と利用状況について調査しました。9 割以上の方が NISA 口座を開設しており、そのうち 6 割以上の方が成長投資枠とつみたて投資枠の両方を利用して投資していることが分かりました。

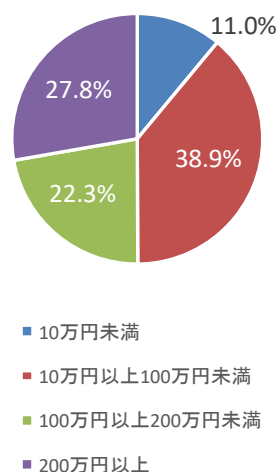
(5-2) 今年の成長投資枠での投資予定金額とすでに投資した金額について

グラフ5-3: 今年の成長投資枠での投資予定金額



(出所) マネックス証券作成

グラフ5-4: 今年の成長投資枠ですでに投資した金額



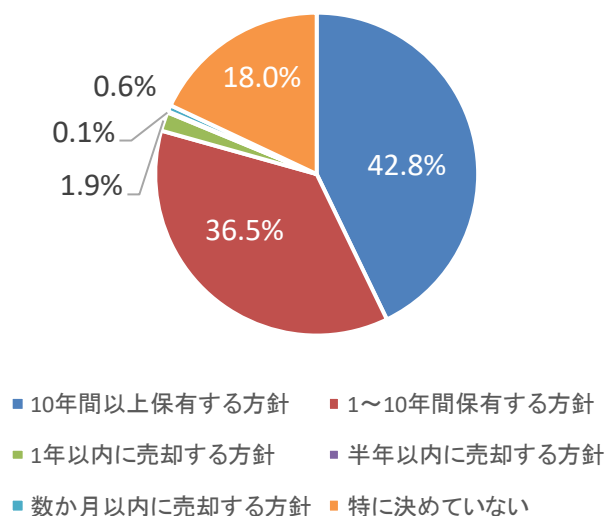
(出所) マネックス証券作成

「成長投資枠とつみたて投資枠の両方を利用して投資した（している）」または「成長投資枠のみを利用して投資した（している）」と回答された方に今年の成長投資枠で投資する予定の金額とすでに投資した金額をたずねました。

投資予定金額については「10 万円以上 100 万円未満」と回答した方の割合が 33.3%で最多となりました。前回調査（2025 年 3 月）では成長投資枠の上限を含む「200 万円以上」と回答した方の割合が最多となっており、変化が見られました。

すでに投資した金額については「10 万円以上 100 万円未満」と回答した方の割合が 38.9%で最多となり、続いて「200 万円以上」が多く、27.8%となりました。

(5-3) 成長投資枠で保有している銘柄の保有方針について

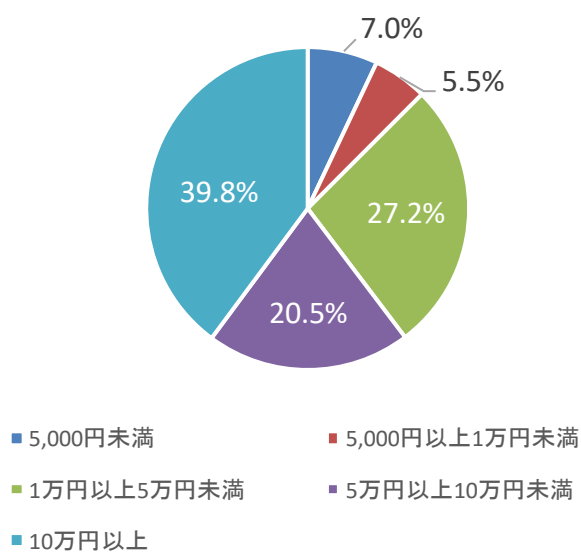
グラフ5-5: 成長投資枠で保有している銘柄の保有方針

(出所) マネックス証券作成

「成長投資枠とつみたて投資枠の両方を利用して投資した（している）」または「成長投資枠のみを利用して投資した（している）」と回答された方に成長投資枠で保有している銘柄の保有方針をたずねました。

4割以上の方が10年以上保有する方針であり、1年以内またはそれより短期間のうちに売却する方針である方の割合はわずか数%程度であることが分かりました。

(5-4) つみたて投資枠での毎月の投資金額について

グラフ5-6: つみたて投資枠での毎月の投資金額

(出所) マネックス証券作成

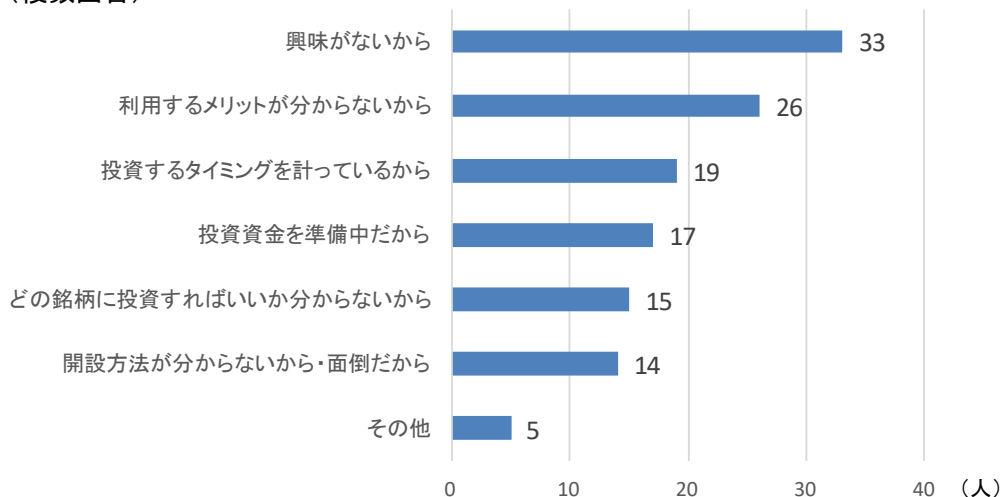
「成長投資枠とつみたて投資枠の両方を利用して投資した（している）」または「つみたて投資枠のみを利用して投資した（している）」と回答された方につみたて投資枠での毎月の投資金額をたずねました。

「10 万円以上」という回答が最多で 39.8% となり、続いて「1 万円以上 5 万円未満」が多く 27.2% となりました。合計で 9 割近い方が毎月 1 万円以上を投資していることが分かりました。

(5-5)NISA 口座を開設していない理由について

グラフ5-7: NISA口座を開設していない理由

(複数回答)



(出所) マネックス証券作成

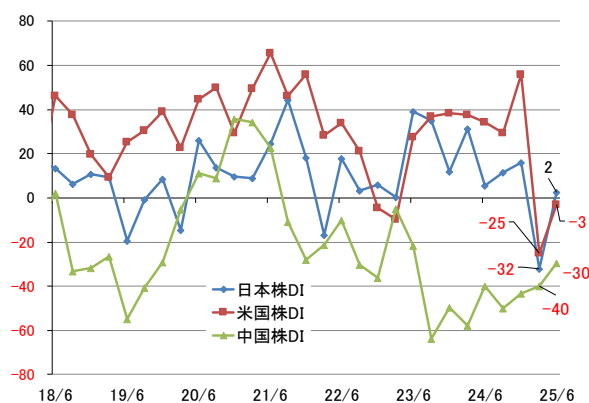
「NISA 口座を開設していない」と回答された方にその理由をたずねました。

「興味がないから」という回答が最多となりました。一方で「どの銘柄に投資すればいいか分からないから」「開設方法が分からないから・面倒だから」という回答も一定数あり、当社としては投資情報や NISA 制度のメリットについての情報発信をより一層強化していきたい所存です。

6. 日本、米国、中国の株式市場に対する見通しについて

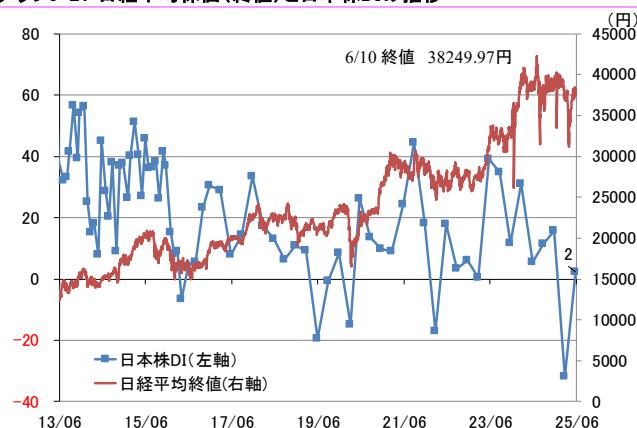
個人投資家の相場観の調査として、今後 3 ヶ月程度の各国（日本、米国、中国）の株式市場に対する見通しを調査しました。

グラフ6-1: 今後3か月程度の株式市場見通し



(出所) マネックス証券作成

グラフ6-2: 日経平均株価(終値)と日本株DIの推移



(出所) マネックス証券作成

今後3ヶ月程度の各国の株式市場に対する個人投資家の見通しは、日本・米国・中国すべてにおいて改善しました。

【日本株 DI】(2025年3月) -32 → (2025年6月) 2 (前回比 +34 ポイント)

【米国株 DI】(2025年3月) -25 → (2025年6月) -3 (前回比 +22 ポイント)

【中国株 DI】(2025年3月) -40 → (2025年6月) -30 (前回比 +10 ポイント)

※ DI: DIとは、相場が「上昇すると思う」と回答した割合(%)から「下落すると思う」と回答した割合(%)を引いたポイントです。DIがプラスとは、「上昇すると思う」と回答した割合が高く、DIがマイナスとは、下落すると思うと回答した割合が高いことを示します。

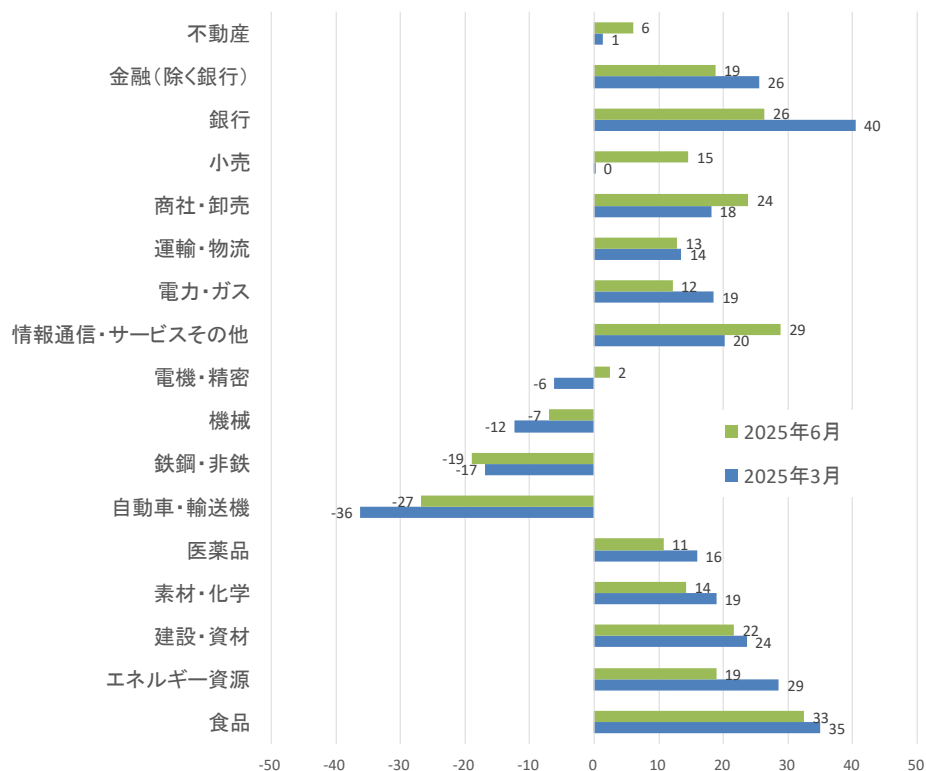
7. 日米セクター別業況 DI

日本と米国の各セクターについて、それぞれ今後3か月程度で「上昇すると思う」「変わらないと思う」「下落すると思う」のいずれになるかをたずね、「上昇すると思う」と回答した割合(%)から「下落すると思う」と回答した割合(%)を引いたポイントを業況 DI として集計しました。

なお、日本のセクターは株価指数 TOPIX-17 の分類を、米国のセクターは世界産業分類基準 (GICS) の分類をそれぞれ参考としています。

(7-1)日本のセクター別業況 DI は「食品」が最高、「自動車・輸送機」が最低

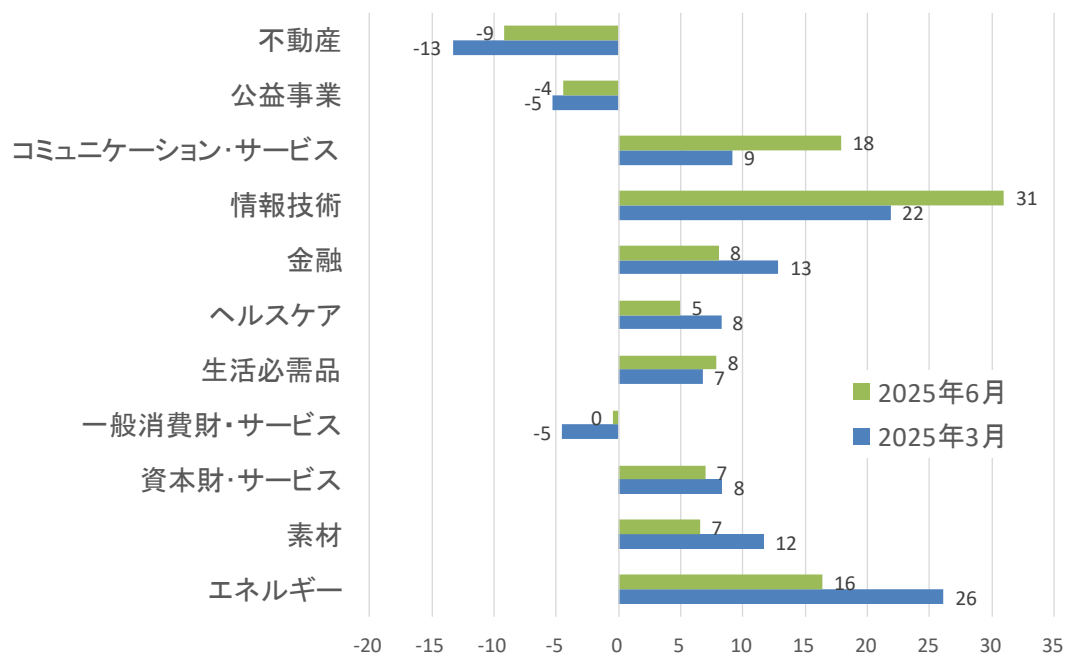
グラフ7-1: 今後3か月程度の日本のセクター別業況DI



(出所) マネックス証券

(7-2)米国のセクター別業況 DI は「情報技術」が最高、「不動産」が最低

グラフ7-2: 今後3か月程度の米国のセクター別業況DI



(出所) マネックス証券

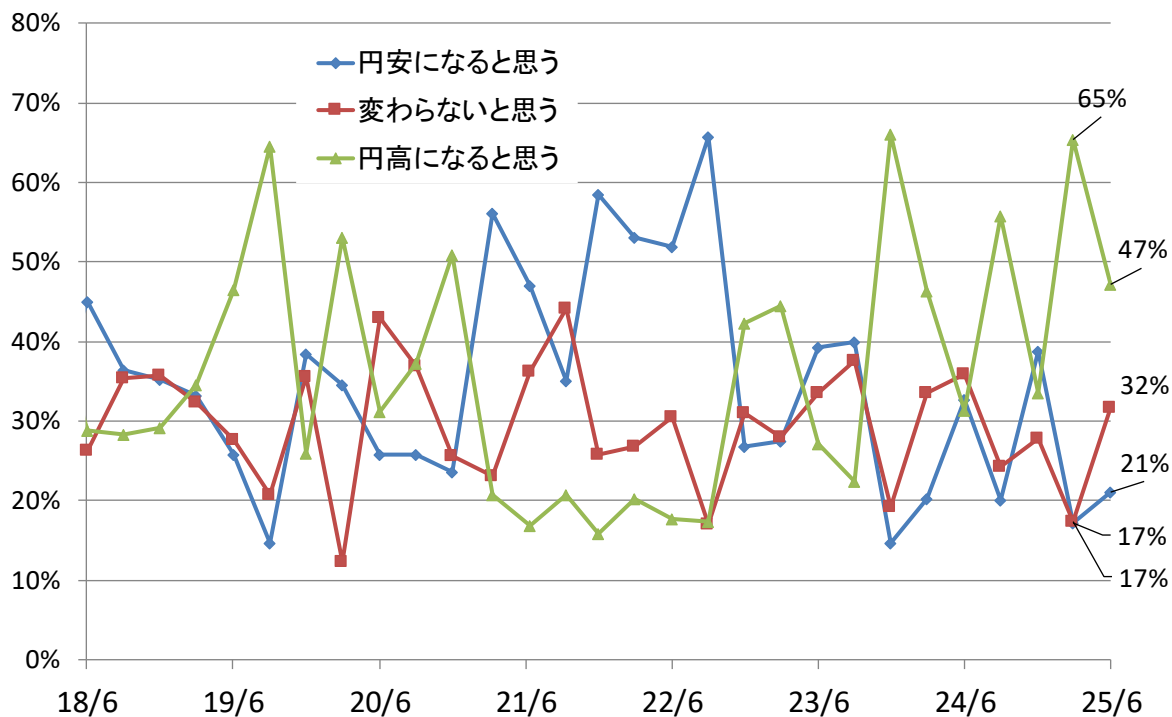
今後3か月程度の日本のセクター別業況 DI は「食品」が33で最高、「自動車・輸送機」が-27で最低でした。前回調査（2025年3月）でも「自動車・輸送機」は最低となっており、依然として厳しい見方が続いているようです。

今後3か月程度の米国のセクター別業況 DI は「情報技術」が31で最高、「不動産」が-9で最低となりました。前回調査（2025年3月）で9だった「コミュニケーション・サービス」は今回調査では18となっており、2番目に大きい値となっています。

8. 為替相場について

個人投資家の相場観の調査として、今後3ヶ月程度の米ドル／円相場に対する見通しを調査しました。

グラフ8-1: 今後3ヶ月程度の米ドル／円相場予想



(出所) マネックス証券

今後3ヶ月程度の米ドル／円相場に対する個人投資家の見通しは、「円高になると思う」が前回比-18%と大きく減少して47%となりました。

【円安になると思う】(2025年3月) 17% → (2025年6月) 21% (前回比 +4%)

【変わらないと思う】(2025年3月) 17% → (2025年6月) 32% (前回比 +15%)

【円高になると思う】(2025年3月) 65% → (2025年6月) 47% (前回比 -18%)

■総 括（マネックス証券 インベストメント・ストラテジーズ 塚本 憲弘）

今回は定例調査である 2025 年の日米株価高値・安値予想や NISA 口座の利用状況、日米株のセクター別選好に加え、2025 年 4 月のマーケット変動や直近の物価上昇を受けた投資状況について調査を行いました。

マーケットの変動に対しては、慌てずに買いのチャンスを探るスタンスが多く見られました。また、インフレ対策の一環として投資を行っている様子も伺え、全体として投資に前向きな姿勢が感じられました。業種の選好では、日本では内需系セクター、米国では引き続きテクノロジー関連への関心の高さが目立ちました。

株式市場の見通しについては、今後の見通し DI が改善したものの、日米ともに株価はこれまでの高値・安値のレンジ内にとどまるとの見方が大勢を占めています。為替についても、これまで優勢だった円高見通しがやや後退するなど、全体として今後のマーケットの方向感がつかみにくいとの認識が広がっています。

そのような中、マネックス証券では今後も適宜マーケットの見通しについて積極的な情報発信をまいります。短期的な動向に加え、中長期の視点からも、投資に前向きになれる、より良い情報発信に努めてまいります。引き続き、皆様の投資対象の選定や投資成果の向上に貢献できるよう尽力いたします。

今回も皆様のご協力により、有益な調査結果を得ることができました。本調査が皆様の資産運用を考える一助となれば幸いです。

2025 年 6 月 16 日 執筆

■調査の概要と回答者の属性

調査方式： インターネット調査

調査対象： マネックス証券に口座を保有している個人投資家

回答数： 1,007

調査期間： 2025 年 6 月 5 日～6 月 9 日

【性別】

男性	女性	回答しない
78.5%	20.2%	1.4%

【年齢】

10 代以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上	80 歳以上
0.1%	1.5%	6.4%	20.2%	35.1%	25.4%	9.7%	1.7%

【金融資産】

500 万円未満	500 万円～1000 万円	1000 万円～2000 万円	2000 万円～5000 万円	5000 万円～1 億円	1 億円以上
19.3%	16.7%	15.8%	26.4%	13.7%	8.1%

【売買頻度】

デイトレード	週に数回	月に数回	月に 1 回	数ヶ月に 1 回	それより少ない
3.8%	10.5%	26.2%	19.8%	16.9%	22.8%

【株式投資のご経験】

1 年未満	1 年～5 年	5 年～10 年	10 年以上
7.6%	17.1%	18.6%	56.7%

本情報は当社が実施したアンケートに基づいて作成したものです。

- ・ 本情報は売買のタイミング等を反映したものではなく、また示唆するものではありません。
- ・ 当社は記載した銘柄の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・ 当社は本情報の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・ 銘柄選択や売買タイミングなどの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・ グラフの数値は、小数点以下の計算により合計が必ずしも 100.0% とならない場合があります。

マネックス証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 165 号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、
一般社団法人 日本暗号資産等取引業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会